

令和8年度「文学国語」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
文学国語		必修	2	GC・文型
教科書 副教材等	文学国語（筑摩書房）			

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 学習概要

文化としての日本語、また、日本語を実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な生活、さらに、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な日本語の芸術や芸能などを学んでいきます。小説・詩・短歌俳句・古文・漢文等の文学や、古典に分類される分野を総合的に学ぶことになります。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読するのとしのないのでは、理解に大きな差が生まれます。また、古文教材や漢文教材については、地道な予習が必要です。古語辞典や漢和辞典を調べることに慣れ、文法的知識を身に付け、きちんと解釈する力を付けましょう。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査（中間・期末考査、学力テスト）……………①、②
- ・小テスト……………①
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②、③

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめりと）	考查等
一 学 期	「情報の彫刻」 原研哉 「山月記」 中島敦 「実体の美と状況の美」 高階秀爾 「メディアと倫理」 和田伸一郎	・紙の書籍の魅力をどのような点にあると考えているか、読み取るとともに、電子メディアの普及により文学作品を読む行為にどのような変化が生じてくるか、同じ一つの作品を、紙の書籍と電子メディアとで読み比べ、自分の言葉で話すことができる。 ・漢文調のリズムを味わいながら、作中人物のやり取りに注目し、小説の中の会話の表現方法を理解するとともに、フィクションの世界だからこそ際立つ人間の姿を読み取ることができる。 ・美意識の中に潜む文化的な基準を、歴史上のさまざまな事例からたどる本文を読み取るとともに、日本の代表的な美術作品を参考にしながら、筆者の見解について論じることができる。 ・本文を通して映像メディアと接する際の留意点を理解することを通し、文学作品特有の表現力について考える。	学力テスト① 中間考查 期末考查
二 学 期	「異なり記念日」 齋藤陽道 「ころろ」 夏目漱石 「死者の声を叫ぶ小舟」 小川洋子 詩歌 「小景異情」室生犀星 「サーカス」中原中也 「永訣の朝」宮沢賢治 短歌 「死にたまふ母」	・本文を読み解き、多様な背景を持つ他者との出会いやふれあいについて追体験をしながら、視覚や聴覚に障害がある人はどのような情報伝達手段を用いているのか、調べて発表することができる。 ・人物のようすに留意して、物語を立体的に捉えながら、「私」の観察と分析、心理の揺れ動きを辿ることができる。 ・「文学の力」について、筆者の主張を読み取ることができる。 ・コミュニケーションと翻訳についての筆者の考えを理解するとともに、筆者の主張を踏まえ、「神様」における「わかりあえなさ」について自分の言葉で意見を述べるすることができる。 ・それぞれの詩の作者について、経歴や作風などを調べ、それぞれの詩の表現や内容について読み解くとともに、それぞれの詩を、構成・リズムに注意してしながら、詩についての自分の意見を発表することができる。 ・それぞれの詩の表現上の技法や、その内容について読解するとともに、「死にたまふ母」連作について、「母」を表現するのにどのようなことばや枕詞が使われているか、説明する。	学力テスト② 中間考查 期末考查
三 学 期	「文学の仕事」加藤周一 「捨てない女」多和田葉子	・筆者が説く「文学」の役割を踏まえ、柔軟ない視点で捉え直すとともに、「そのことを文学者が語らなければ誰も語らないと思うのです」とあるが、そこには筆者のどのような思いが読み取れるか論じ、「文学の力」について、自分の考えを述べる。 ・比喩と想像力が生み出すことばの広がりを読み味わうとともに、本文から印象的な表現を選び、どのような点が印象的なのか考えることができる。	 学年末考查